宮城あきらさん

　歴史の闇に埋もれていたこの事件に関して、掘り起こしの機運が高まったのは１６年８月。映画監督の松林要樹さん＝沖縄県在住＝が旧サントス日本人学校を訪ねた際、なにげなく机に置かれていた「強制立ち退き時のサントス在住日本人名簿と立ち退き先」を見つけたことだった。

　その名簿には５８５世帯の名前が書かれており、約６割の３７５世帯が沖縄県人移民だった。知らせを受けた宮城さんと勝ち負け抗争を描いたドキュメンタリー映画『闇の一日』の監督の奥原マリオ純さんらが、各々がこの事件の調査・究明を行うために動き始めた。本紙でも樹海コラム１３年４月１７日付にあるように、この問題をもっと重要視すべきと度々書いてきた。

　宮城さんは、この名簿をもとに同塾で出版している同人誌『群星（むりぶし）』の第３～５号で当時の証言を集めて掲載。また奥原さんは１５年１２月に連邦政府に対し、損害賠償を伴わない謝罪要求訴訟を起こしていた。これには昨年、沖縄県人会も支援することが全会一致で承認されている。公の日系団体が初めてこの運動への支援を決めた。

奥原マリオ純さん